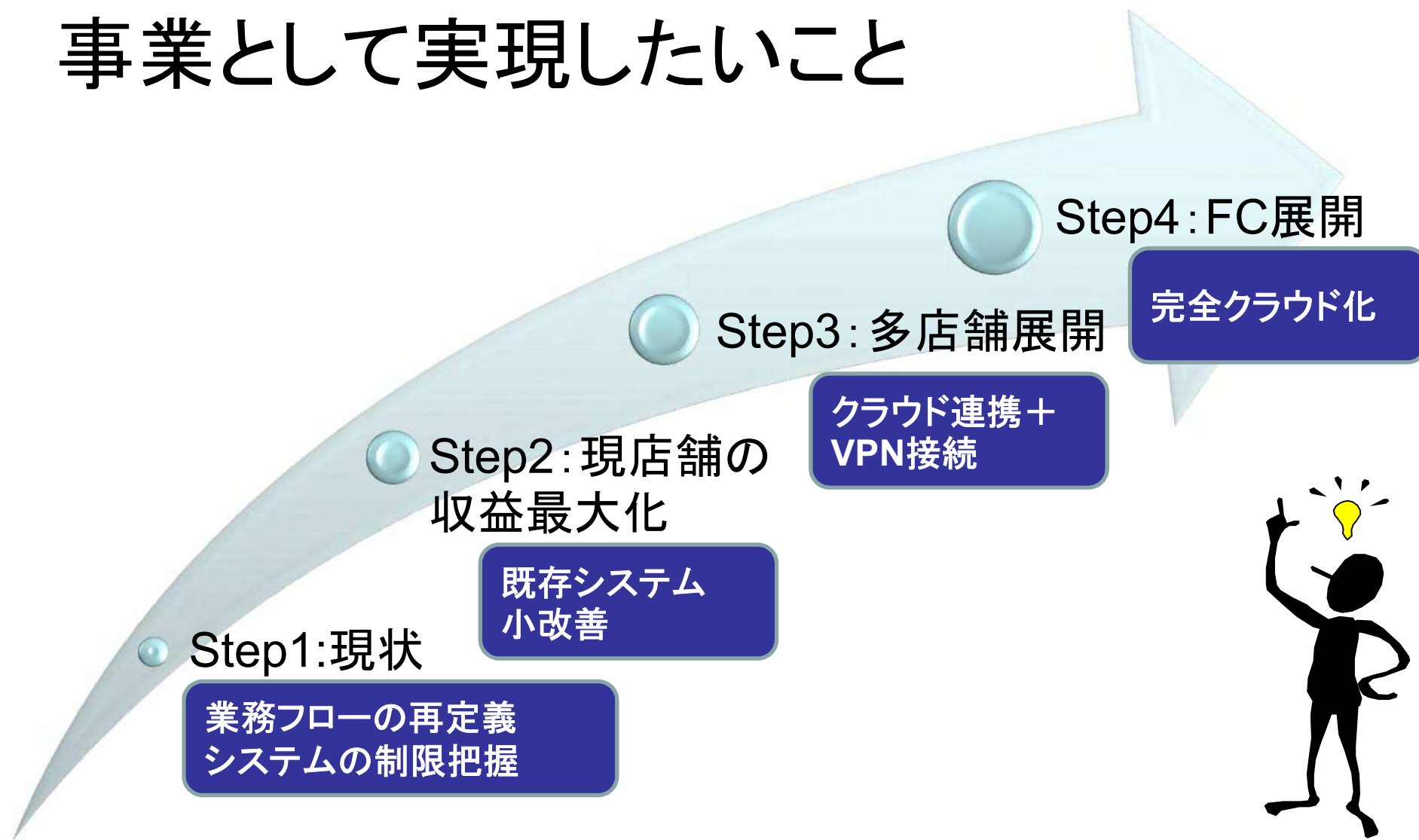


kintone導入前に検討 事業として実現したいこと



kintoneで実現できたこと その1

- 工番発行業務の効率化
 - 社内・社外を意識することなく業務ができる



- 不要な電話依頼や社内での声かけが不要になった



kintoneで実現できたこと その2

- 分析

- あらゆる切り口でデータの分析ができる
 - 期間や軸・円グラフや折れ線グラフなど



- プログラム改修せずに新しい集計方法で検証できた
 - ⇒ 集計クエリの作成・データ抽出・資料作成の工程を簡略化



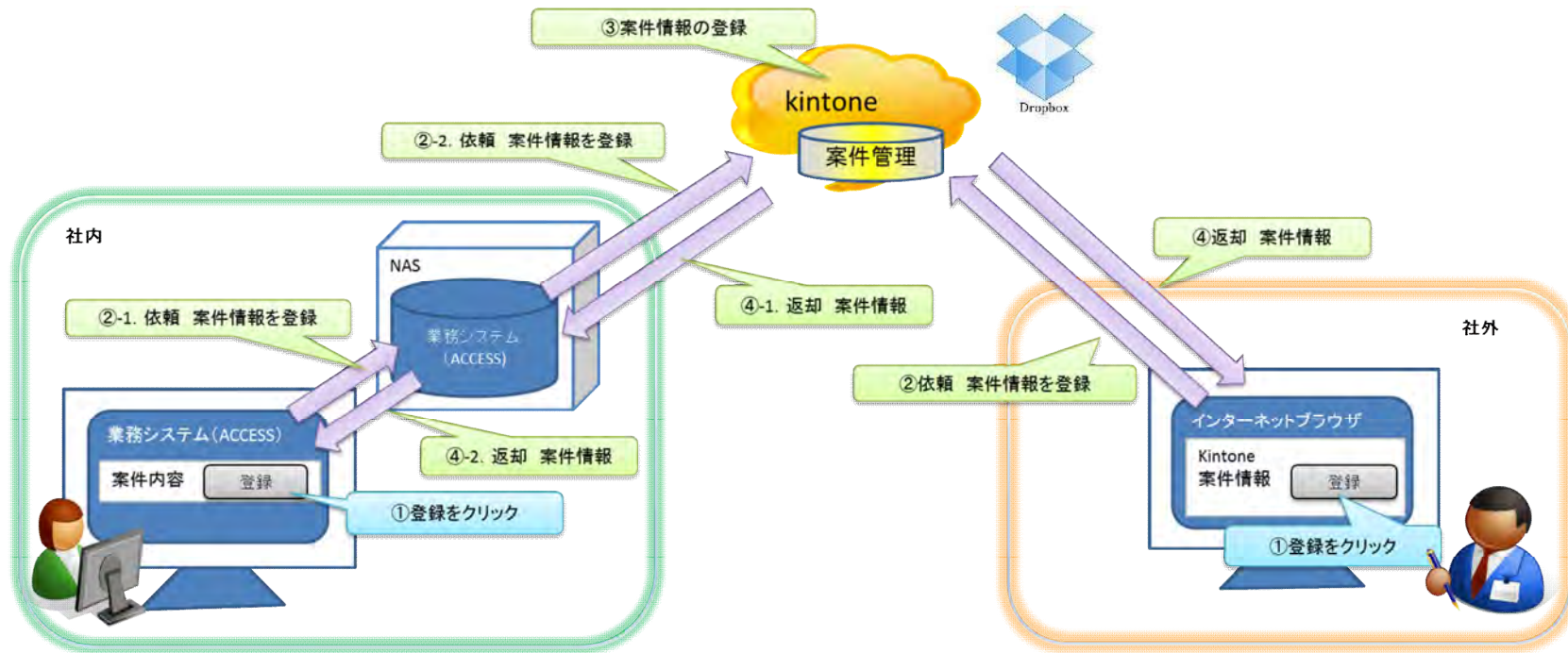
kintoneで実現できたこと その3

- kintoneの導入により
資料や管理情報もクラウド上で一元管理
 - ExcelやWordなどの資料
 - kintoneの案件に紐づいてDropbox上に連携
 - コールセンターとの情報共有
 - メールを送受信履歴で管理 > 不要になった
 - 問い合わせの確認、メモによる共有 > 不要になった



社内外での情報連携

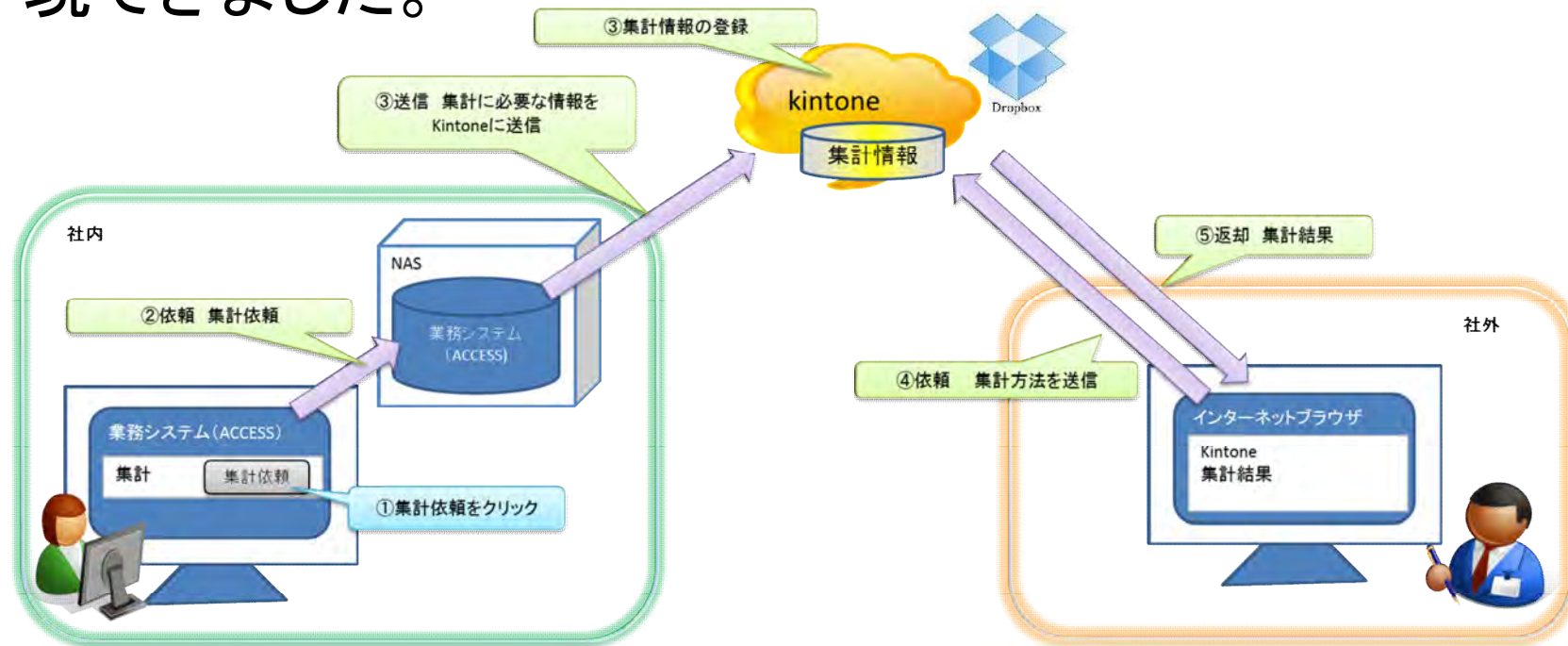
- 社内業務と社外業務をうまく連携できました



連携項目やテーブル情報管理は、kintoneで全て実現できました。

データの蓄積とファイルの管理

- 情報の蓄積や集計、ファイルの管理(Dropbox連携)が実現できました。



データはkintone上ですべて管理。kintoneからDropboxも自動連携できるようになりました。

Kintoneに期待していて、実現できた事

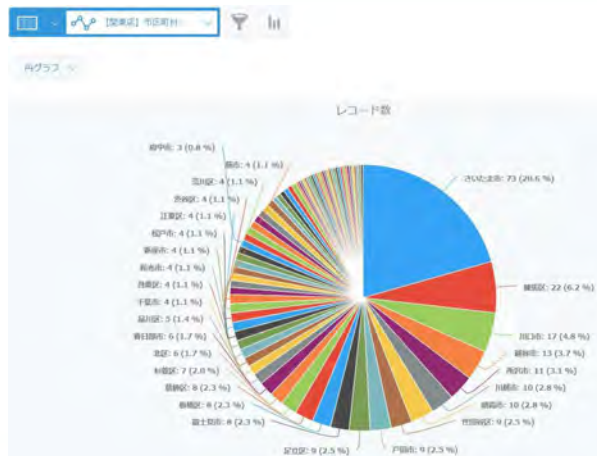
クラウド化



多拠点対応(各拠点売上)



データの集約



データを入力する事で、リアルタイムに集計・分析が出来るようになりました。またグラフのパラメータを簡単に変更できるので、新たな切り口でグラフを閲覧する事がスピーディになりました。

(そこまで)期待はしていなかったが、新たな可能性につながったこと

- 情報共有と使いやすさの本当の価値
 - 自社だけでなく、協力会社や障害者の方とも一緒に事業をつくっていけるというイメージ
 - 情報の共有や分析だけでなく、使いやすさもツールで実現
 - ※ 障害者の方にはバーコードで作業実績登録する仕組みを構築
- 分析・集計の本当の意味
 - 「仮説・検証・実行」のために最適なツールであり、経営判断が早くなった。